

みずほマーケット・トピック(2023 年 9 月 8 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

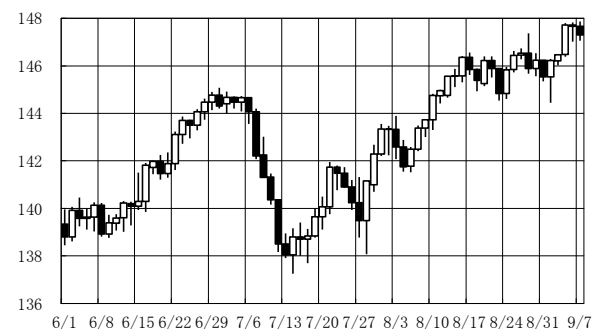
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、続伸して年初来高値を更新する展開。週初4日、146.08円でオープンしたドル/円は、材料に欠ける中、レンジ推移した。海外時間は、米国休日で動意に欠ける中、ユーロ/円相場の動向につれる格好で146円台半ばに上昇した。5日、ドル/円は米金利上昇を受け147円付近に続伸。海外時間は、ウォーラー・FRB理事の発言が警戒されたほどタカ派でなかったことを背景に弱含む場面もあったが、米金利が高止まりする中、147円台後半に上値を伸ばした。6日、ドル/円は神田財務官の円安けん制発言や、米金利低下を受け147円台前半に下落。海外時間は、米8月ISM非製造業景気指数の堅調な結果を背景に、米金利上昇につれ147円台後半に値を戻した。7日、ドル/円は仲値にかけ円売りが強まり、年初来高値となる147.87円に続伸も、その後は日本株の軟調推移や米金利低下を受け147円台半ばに反落。海外時間は、米新規失業保険申請件数や米4~6月期単位人件費(確報)の強い結果を背景に147円台後半に上昇する場面もあったが、米金利が低下基調を続けたこともあり147円台前半に下落した。本日のドル/円は、147円を挟んで値動きの激しい取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは、米金利上昇を受け、6月8日以来、3か月ぶりに1.07を割り込んだ。週初4日、1.0776でオープンしたユーロ/ドルは、独金利上昇を受け一時1.08台に乗せるも、引けにかけては失速し1.08を割り込んだ。5日、ユーロ/ドルは、米金利上昇が重しとなる中、ユーロ圏8月サービス業PMI(確報)の弱い結果が嫌気され、1.07台前半に下落した。6日、ユーロ/ドルは、独金利上昇が下支えとなり1.07台半ばに上昇も、NY時間には良好な米経済指標を受けた米金利上昇を背景に1.07付近に反落した。引けにかけては、ユーロの戻り買いもあり一日を通してはほぼ往って来いとなった。7日、ユーロ/ドルはユーロ圏4~6月期GDP(確報)の下方修正が嫌気されたことや、堅調な米経済指標を受けた米金利上昇が重しとなり、一時週安値となる1.0686に下落した。本日のユーロ/ドルは、ユーロの買い戻しを受け1.07付近での取引となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		9/1(Fri)	9/4(Mon)	9/5(Tue)	9/6(Wed)	9/7(Thu)	
ドル/円	東京9:00	145.48	146.08	146.54	147.47	147.72	
	High	146.30	146.50	147.80	147.82	147.87	
	Low	144.44	146.04	146.47	147.02	147.05	
	NY 17:00	146.27	146.50	147.70	147.71	147.30	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0843	1.0776	1.0793	1.0725	1.0724	
	High	1.0882	1.0809	1.0798	1.0749	1.0731	
	Low	1.0772	1.0772	1.0705	1.0703	1.0686	
	NY 17:00	1.0773	1.0797	1.0722	1.0727	1.0696	
ユーロ/円	東京9:00	157.75	157.45	158.11	158.22	158.38	
	High	157.95	158.24	158.50	158.44	158.51	
	Low	157.06	157.35	157.81	157.81	157.39	
	NY 17:00	157.58	158.16	158.34	158.40	157.53	
日経平均株価		32,710.62	32,939.18	33,036.76	33,241.02	32,991.08	
TOPIX		2,349.75	2,373.73	2,377.85	2,392.53	2,383.38	
NYダウ工業株30種平均		34,837.71	-	34,641.97	34,443.19	34,500.73	
NASDAQ		14,031.82	-	14,020.95	13,872.47	13,748.83	
日本10年債		0.63%	0.64%	0.65%	0.65%	0.66%	
米国10年債		4.18%	-	4.26%	4.29%	4.25%	
原油価格(WTI)		85.55	-	86.69	87.54	86.87	
金(NY)		1,967.10	-	1,952.60	1,944.20	1,942.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、13日(水)に8月消費者物価指数(CPI)が公表予定となっている。7月の結果は+3.2%(前年比、以下同様)と6月の+3.0%から伸びが加速した。また、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは+4.7%と6月の+4.8%から鈍化。供給制約緩和や需要減退の影響が通減する中でも、非コア価格やコア財価格は低位安定している。一方、コアサービス価格は下げ止まり感もある。特に、住宅を除いたコアサービス価格は、ブルームバーグの試算によれば+4.1%と6月の+4.0%から加速した。現状、ヘッドラインのインフレ率は着実に+2%目標を視野に捉えつつあるが、基調的なインフレ率は依然高水準だ。背景が賃金の騰勢だとすれば、利上げ停止を示唆するわけにはいかない状況だ。なお、8月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+3.6%、コアベースで+4.3%と見込んでいる。
- 欧州では、14日(木)にECB政策理事会が開催される。7月会合では、各種政策金利を+25bp引き上げた。声明文では、政策金利に関し「十分に引き締めの水準に引き上げる」としていたが、「十分に引き締めの水準に設定する」に変更された。利上げ継続を約束していた前回から比較すれば、タカ派姿勢が後退。ラガルド ECB 総裁の会見からも域内経済減速への配慮が感じられ、会合後から足許にかけては、景気失速と ECB のタカ派姿勢後退を意識したユーロ売り圧力が強まった経緯がある。なお、議事要旨では、改定されるスタッフ見通し次第では9月利上げが不要になるといった趣旨の記述が見られた。これらの流れを受け、利上げ見送りの可能性が浮上しているのも事実だ。ただ、サービス物価の強さや、過去最低水準で推移する失業率を考慮すれば、利上げの見送りはあっても停止を宣言する可能性は低い。

	本 邦	海 外
9月8日(金)	・7月毎月勤労統計 ・4～6月期 GDP (確報) ・7月国際収支 ・8月景気ウォッチャー調査	・独8月消費者物価指数(確報) ・米7月卸売在庫(確報)
11日(月)	・8月工作機械受注(速報)	—————
12日(火)	—————	・独9月 ZEW 景気期待指数 ・米8月 NFIB 中小企業楽観視数
13日(水)	・8月国内企業物価指数	・ユーロ圏7月鉱工業生産 ・米8月消費者物価指数
14日(木)	・7月コア機械受注 ・7月鉱工業生産(確報) ・7月設備稼働率	・ユーロ圏 ECB 政策理事会 ・米8月小売売上高 ・米8月生産者物価指数
15日(金)	—————	・ユーロ圏7月貿易収支 ・ユーロ圏4～6月期労働コスト ・米8月輸出/輸入物価指数 ・米8月鉱工業生産 ・米9月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2023年9月～)】

ECB 政策理事会 (9月14日、10月26日、12月14日)

FOMC (9月19～20日、10月31日～11月1日、12月12～13日)

日銀金融政策決定会合 (9月21～22日、10月30～31日、12月18～19日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2023年9月7日	日本の貿易収支が直面する2つの想定外
2023年9月6日	海外出張で体感した内外価格差について
2023年9月4日	BRICS共通通貨は「いつか来た道」
2023年9月1日	週末版(ECB政策理事会議事要旨と8月消費者物価指数について～9月利上げの行方～)
2023年8月30日	夏を終えても変わらなかった円の独歩安
2023年8月28日	ジャクソンホールで浮き彫りになるインフレに対する「当事者」感
2023年8月25日	週末版
2023年8月24日	ユーロ圏経済の悪化とユーロ相場の現状
2023年8月23日	なぜ購買力平価は使えなくなっているのか
2023年8月22日	力強さが続くユーロ圏の雇用・賃金情勢
2023年8月21日	「持たざるリスク」に直面する日本の家計部門
2023年8月18日	週末版(本邦7月貿易収支を受けて～中国不振が阻害する収支改善～)
2023年8月17日	本邦4～6月期GDPの読み方～冴えない内需～
2023年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年7月分)
	年初来安値で確認する円の立ち現在地
2023年8月14日	再投資柔軟化から1年～フランスに並んだイタリア～
2023年8月10日	週末版(アマゾン「プライム」値上げの意味するもの～デジタルサービスへの外貨流出～)
2023年8月9日	緩和と持続を約束する実質賃金の低迷～円安の余韻～
2023年8月8日	23年上半期の国際収支統計を受けて～CFベースでは赤字～
2023年8月7日	マイナス金利解除の実現可能性～日銀に迫る円売りゲーム～
2023年8月4日	週末版
2023年8月2日	ユーロ圏経済の近況～経済・物価情勢はECBハト派化を示唆～
2023年7月31日	日銀会合を終えて～今後の課題は「円売りによる挑発」～
2023年7月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～急速に薄らいだタカ派色～)
2023年7月27日	FOMC(7月25～26日)を終えて～現状維持に備え～
2023年7月25日	日銀金融政策決定会合(7月27～28日)プレビュー
2023年7月21日	週末版(正常化が近づくインバウンド需要～労働で稼いだ外貨はどこへ行くのか・・・～)
2023年7月20日	23年上半期の貿易収支を受けて～構造変化を直視～
2023年7月19日	残る円安・資源高の余波～物価「変化率」だけでなく「水準」も～
2023年7月18日	ICEドルインデックスの100割れをどう読むべきか？
2023年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年6月分)
	週末版
2023年7月13日	実効ベースで見た為替相場～最強「フラン」と最弱「円」～
2023年7月12日	円高の読み方～自律反発後にどこまで戻るか～
2023年7月11日	経常収支の正しい読み方～符号ではなくキャッシュフローを～
2023年7月10日	イノベーションボックス税制はBrain freezeの処方箋か
2023年7月7日	週末版(金利差拡大で円安が進まない背景～日本株下落とポジションの偏り～)
2023年7月6日	「投機の円売り」と「夏枯れ相場」～進むキャリー取引～
2023年7月5日	ユーロ圏6月消費者物価指数～雇用・賃金情勢の逼迫～
2023年7月3日	シミュレーション進む「ドル抜きの世界」～COFERの近況～
2023年6月30日	週末版
2023年6月29日	金融政策と通貨政策、動くのはどちらが先か
2023年6月27日	23年3月末時点の「資金循環統計」を受けて
2023年6月26日	「2005～07年の円安バブル」と現在の違い
2023年6月23日	週末版
2023年6月22日	ECBは利上げ停止後に何をするつもりか
2023年6月21日	「Brain freeze(思考停止)」と研究開発サービス赤字
2023年6月20日	「2030年までに対内直接投資残高100兆円」の現実味
2023年6月19日	日本、「監視リスト」除外の読み方～国力低下の象徴～
2023年6月16日	週末版(ECB政策理事会を終えて～we're not at destination～)
2023年6月15日	FOMCを終えて～追い詰められる円高見通しと年内利下げ～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年5月分)
2023年6月14日	日銀はいつ動くのか～円安抑止策としてのYCC修正可否～
2023年6月13日	家計金融資産の「開放」は何を意味するか～骨太の方針～
2023年6月12日	FRBは他国・他中銀から影響を受けるのか？
2023年6月9日	週末版
2023年6月8日	本邦4月国際収支統計を受けて～「新しい赤字」の影～
2023年6月7日	ユーロ圏のインフレ期待について～6月会合プレビュー～
2023年6月6日	「弱い円」への諦観は日本人を動かすか？
2023年6月5日	米5月雇用統計を受けて～遥か遠のく年内利下げ～
2023年6月2日	週末版(コアベースでも鈍化し始めたユーロ圏インフレ率～ハト派転化には十分と言えず～)
2023年6月1日	FRB、6月利上げ見送りの受け止め方～円高到来か？～
2023年5月30日	ユーロ圏の資金・物価情勢～資金は峠、エネルギー環境は脆弱～
2023年5月26日	週末版(32年連続世界最大の対外純資産国の意味～過去最高を記録した直接投資比率～)
2023年5月24日	構造的に薄れるPPPを見る意味～「成熟した債権国」と共に～
2023年5月23日	「世界中が欲しがらる財・サービス」は「高嶺の花」～「弱い円」の価値～
2023年5月22日	資産価格が上がっているのか、円が下がっているのか
2023年5月19日	週末版
2023年5月18日	1～3月期GDPを受けて～ベントアップ需要を阻む円安～
2023年5月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年4月分)
2023年5月16日	4月国内企業物価指数を受けて～変化率と水準の違い～
2023年5月15日	新しい外貨流出源～デジタル・コンサル・研究開発～
2023年5月12日	週末版(米連邦債務上限問題について～政府機関閉鎖は一時的な円高材料に～)
2023年5月11日	3月国際収支統計を受けて～インバウンドの功罪～
2023年5月9日	ECB政策理事会を終えて～持続する利上げ路線～
2023年5月8日	FOMCを終えて～利上げ停止でも円安持続という現実～
2023年5月2日	円相場の現在地～下がり続ける購買力、最強通貨はフランに～
2023年5月1日	植田体制初会合のレビューと円相場への影響
2023年4月28日	週末版
2023年4月26日	ユーロ/円相場、8年4か月ぶり高値の背景整理
2023年4月25日	日銀、初会合プレビュー～YCC撤廃確率は40%～
2023年4月24日	ECB政策理事会議事要旨と5月会合プレビュー
2023年4月21日	週末版(インバウンドの現状と展望～量、質ともに復調しつつあるインバウンド需要～)
2023年4月20日	本邦3月貿易収支～赤字は3か月で5兆円超え～
2023年4月18日	EU-ロシア貿易の構造変化～戦争の余波～
2023年4月17日	GFSRも重要性を訴える地経学的な思考
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年3月分)
2023年4月14日	週末版(FOMC議事要旨と米3月CPIを受けて～円安見通しへの影響はあるか？～)
2023年4月12日	変わる直接投資とスローバライゼーション(slowbalization)
2023年4月11日	植田会見、「直ちに修正することは無い」の真意
2023年4月10日	第一次所得収支の内情～戻ってくる円は半分程度か～
2023年4月7日	週末版(日銀金融政策決定会合プレビュー～初戦は様子見を予想～)
2023年4月6日	次の危機はCRE危機か？～ECBの警鐘～